

# 共立女子大学文芸学部報

共立女子大学文芸学部報  
第133号  
発行日 2019年11月1日  
編集・発行 共立女子大学  
文芸学部  
〒101-8437  
東京都千代田区  
一ツ橋2-2-1  
発行責任者 深津謙一郎  
創刊 1968年12月  
題字 遠藤慎吾  
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。  
gakubuh@kyoritsu-wu.ac.jp  
学部報は共立女子大学公式HPの「文芸学部」のコーナーでもお読みになれます。  
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

第133号 主目次

第1面	トップエッセイ 美の旅 大学随想
第2面	特集 「さあ来るなら、サークル。」 卒業生コラム
第3面	研究ノート 心象点描
第4面	各セクションから

〈今号の一言〉  
「全部自分達でやる。苦勞や失敗はあっても勝ち負けはない。思い出と経験が自分の中に結晶していく、これこそが真のアクティブ・ラーニングだ。」 (鈴木国男)

**大学随想**  
アニメにならなくても有名な児童文学作品は数あれど、『ハリーポッター』はその代表格である。孤児の魔法使いハリーは、人間の伯母の家庭で継子扱いで育てられる。

# プラハの夏

沼田 知加

今年の夏、久しぶりに二週間ほど海外旅行に出かけた。長年訪れたいと思いつけていたプラハが主な目的地だったが、直行便が利用しやすいミュンヘン経由で陸路プラハに入ることにした。出発の十日ほど前に、往復の飛行機と到着日・帰国前日のホテルをネットで予約し、旅の予定はほぼ空白のまま出発した。

世界最大規模を誇るビール祭典「オクトーバーフェスト」(今年九月二日〜十月六日まで)で有名なミュンヘンも、八月二日ではさすがにまだその気配はない、と思いきや、「二〇一九年オクトーバーフェスト」の特別仕様ラベルが貼られたビールがすでに届いていた。最近、週に一日だけ決めていたビールを毎日味わう至福の旅はこうして始まり、四日間のドイツ滞在の後、プラハへと移動することにした。

「チェコスロヴァキアめぐり」を旅のお供にして、ミュンヘン中央駅八時四三分

発プラハ本駅十四時十九分着の直行列車で、五時間半ほどの旅だ。TVの長寿ミニ番組「世界の車窓から」よろしく、ゆっくり流れる時間を愛しよう。駅で買ったパンとサラダをコンパートメント式の車内で食べ、カレル・チャペック「チェコスロバキアめぐり」(飯島周編訳、ちくま文庫)を読み始めた。旅の間に本を読むことはめったにないが、この長距離移動の間だけは特別な読書時間だ。

持参した翻訳書は「チェコ国内絵図」「プラハめぐり1 古いプラハ」「プラハめぐり2 成長するプラハ」「プラハめぐり3 そと暮らす人びと」「スロヴァキア絵図」の五部に編集され、それぞれに数篇のエッセイが収められている。チャペックの生まれ故郷である北西部の山里の様子を描いた冒頭の数篇を読んでいると、プラハだけでももったいないと思ひ思ふ。もちろん、チャペックがこれらの旅行記を書いたのは今から百年近く前のことであり、故

郷を語る彼の声は、自らの子供時代にも向けられている。描かれた山里も現在では別の姿を示しているだろう。それでもやはり、プラハ以外の街や村を歩いて見たいという欲望が募る。

ハヴルヴァア川に沿ってVという箇所は、行く予定にしていたチェスキークルムロフの話から始まっている。プラハもチェスキークルムロフも世界遺産だし、観光客だらけだろうな。いやいや、私も立派な観光客の一員、オーヴァー・ツーリズムの一因だ。とにかく自分の目で見たいのだ! とポジティブな開き直り状態に突入する。もう少し読み進めれば、お待ちかねの「プラハ篇」だ。

と、突然列車が止まり、全員列車を降ろされた。えっ、何? まるで「城」の主人公Kのようにな……

降ろされたのは、ドイツ国境に近いシュトトという町である。列車内のアナウンスはドイツ語とチェコ語で、たまに英語だ。いず

れにしても列車が走る音にかき消されて、よく聞こえない。慌てて列車を降りる乗客に交じり、追いつてられるように隣接する空き地に向かう。そこに停まっていた観光バス二台に、みなおとなしく乗り込んで行く。

「事故でもあって、バスでプラハへ」と訝りつつ、係員らしき人物に聞いてみる。「プラハに行くのですね?」「そうだ」とばかりに手で合図するだけ。半信半疑でスーツケースを詰め込むが、座席が空いている。「このままプラハまで行くのも快適かも」と楽観していた。ところが十分ほどで停車し、乗客が続々と降りて行くではないか。「ココハドコ?」

別のバスに積んであったスーツケースを回収し、元のバスに戻った。そこにはすでに新たな乗客が乗り込んでいて、なんの前触れもなく再びバスは動き出した。

やれやれ、これで一安心。うん? 違う。さっき通った道だ! 乗客のほとんどは大学生らしき一団で、隣の女子に恐る恐る聞いてみる。「このバスはプラハに行くの?」その瞬間、前の席に座っていた男子二人が振り向き、その表情は「残念」と言っている。「シュトトだよ。」

シュトトに舞い戻ったとき、もう一台のバスはすでに去っていた。大慌てで運転手に「プラハに行きたいのに、シュトトに戻ってしまった」と必死に訴える。運転手は地元の人らしき老人と談笑中だ。その老人にも喋りかけてみるが、まったく通じない。パニック状態の時々日本語交じりになってしまうが、迫力だけは満点だ。突然その老人が「なんだ。お前の話しているのは英語か? 俺はドイツ語しか分かるん」というようなことを、(たぶん)チェコ語で話し始めた(ようだ)。

万事休す。これではまるでカフカ「城」の主人公Kみたいだ。寒村の城どころか、いつまでたってもプラハに辿り着けそうにな

い。すると老人が「もう一度駅まで送ってやれ」と(たぶん)チェコ語で運転手に言ってくれた(ようだ)。

こうして三度目の正直で着いた先は、プラハに向かう列車の停車駅として覚えていた、ピルスナー・ビール発祥の地プリュゼニ

だった。とりあえず地ビールでも飲んで落ち着こうと、駅の売店で迷っていると、通りすがりの親切なビジネスマンが「これは強くて、これは軽めで、これはノンアルね」と教えてくれた。

「モンスター」のカレル橋も「核なき世界」のフラチャニ広場も三時間ほど遅れて、やっとプラハに着いた。着いただけで感動した。

私がチェコに行きたいと思っていた理由はたくさんある。浦沢直樹「モンスター」で重要な意味

を持つカレル橋を自分の足で渡り、蛇行するウルタヴァ川を街の様々な場所から眺め、脳内でスメタナの『我が祖国』を響かせる。民主化を求めたハヴルヴァの春を無惨にも戦車が押し潰して行ったヴァーツラフ広場は、ハビロ

ド革命を経て三十年。今では両側にホテルやレストランやお店が立ち並び、私のような観光客が行き交う場所になっている。

オバマ前大統領が「核なき世界」の実現を訴えたフラチャニ広場にも立ってみたい。この広場はプラハ城を突っ切った先の庭園近くにある。プラハに入る苦勞が嘘のように、「城」の主人公Kとは違って、こちらの城には簡単に行けた。

プラハの夏、めでたしめでたしと旅を続けた。帰国後に、中断していたチャペックを読みながら、再度「プラハ」を堪能している秋の日々である。

(教授・英語英米文学)



プラハの街を一望するペトシーン公園から見たプラハ城 (筆者撮影)

サリーの魔法とドラえもん道具は意味合いが大きく異なる。たとえば、車にひかれそうになった人Aをサリーが魔法で助けたとする。これは勇敢な人がAを助けるのと同じだ。一方、ドラえもんがポケットから「逆時計」を出してAを助けた場合は、歴史が変わる。生き延びたAはBと結婚し、Cが生まれる。しかし、「逆時計」を使わなかった場合、Aは死に、BはDと結婚し、Eが生まれてきたはずだ。「逆時計」を使った瞬間に、Eの人生は消滅してしまう。

もちろん、ひかれて死んだAを生か返らせる魔法をサリーが使っても、同じく歴史が変わってしまう。来年度の入学から、文芸学部のカリキュラムが一新される。現職の専任スタッフが英知を結集してつくったカリキュラムである。いや、待てよ。本学にも魔法使いや未来人が紛れ込んでいて、魔法や逆時計を使って改変したカリキュラムかもしれない。もしそうなら、元々私たちがつくったカリキュラムは、いったいどんなカリキュラムだったのだろうか。

美の旅  
福田 収  
恋人(フレイグ?)の左足は色彩豊かな花畑の淵にころもろもろかかっている。その淵こそ、世紀末ウィーンの退廃的気分のなかに顕現した、意味創出の地平を切り分ける一つの(境界(エッジ))に他ならない。それは(希望と絶望(生と死))といった人間の永遠に対峙せる両極を在らしめる当のものである。  
(教授・文芸メディア)

アニメにならなくても有名な児童文学作品は数あれど、『ハリーポッター』はその代表格である。孤児の魔法使いハリーは、人間の伯母の家庭で継子扱いで育てられる。

(中本恭平・教授・英語英米文学)



グスタフ・クリムト「接吻」1907-1908年  
ベルヴェデーレ宮殿オーストリア絵画館所蔵

今年の夏、久しぶりに二週間ほど海外旅行に出かけた。長年訪れたいと思いつけていたプラハが主な目的地だったが、直行便が利用しやすいミュンヘン経由で陸路プラハに入ることにした。出発の十日ほど前に、往復の飛行機と到着日・帰国前日のホテルをネットで予約し、旅の予定はほぼ空白のまま出発した。



数を超えて  
というけれど

林 幹夫

「音楽を専門としない共立生諸君の、けっして恵まれているとはいえない環境条件の下で、より質の高い合唱音楽を追い求める真摯でひたむきな姿が、余りにも浮薄な、ともすれば易きに流れてしまいがちな風潮の中で、ひととき眩しい光を放っていることを誇らしく思います。今宵も、団員一人ひとりの思いがひとつに繋がりが合い、醸し出す見事なハーモニーがホールを満たし、歌う者と聴く者と共に音楽の喜びを分かち合うそのとき、どこかで、ミュージズがやさしく微笑みかけてくれているにちがいありません。」

これは大学七十年の歴史の中で実に六十一回を数える昨年の「共立女子大学合唱団定期演奏会」に寄せた顧問としてのメッセージである。

「恵まれているとはいえない環境条件」どころか、そもそも合唱団が存分に使用することのできる練習場所が学内にないのだからビックリ。学業が本務の学生にとってサークル活動は所詮副業だとしても、だからこそ、部長役員は学外で近場の練習場所を求めて奔走せざるをえない。使用料もばかにならない。

この合唱団にとって定演と並ぶ伝統のイベントに「四大学女声合唱連盟演奏会」がある。今春第三十四回のオンステメンバールは、立教二三四、慶應二

二十一、共立女子二八、日本女子二七。この人数差をどう考えるか。どうすれば共に歌い共に歓ぶ仲間を増やすことができるのか。答えが見えているだけに悩ましい。

果たしてこの数で合唱が成立するのかが、常任指揮者は、ほかにいくつもの優れた合唱団を主宰し、合唱界を牽引する星として今をときめく作曲家・指揮者、相澤直人氏。この形でも維持されるのは、数の多少を超えたところに結晶するパフォーマンスの質の純化によって合唱音楽の高みを目指す相澤の姿勢に、全員が「真摯

演劇研究者失格?

鈴木 国男

私は今、演劇研究者としての資格を問われる覚悟でこの原稿を書いている。その理由は後に述べる。

二十五年ほど前に文芸学部の専任教員となり、演劇学では唯一の恩師といふべき河竹登志夫先生と机を並べるといふ栄誉に浴したが、河竹先生は程なく退職され、その際に演劇研究部の顧問を引き継いだ。以来、「劇団夢彩色」として年に数回行なわれる公演のほとんどもすべてに足を運んでいる。原則としてオリジナル作品。小さな空間で数人の女子学生だけが演じる小さな劇。そこには、本当に身の丈に合った、自然で親密で、はっとするような発見が隠されたドラマがいつもある。

秋と言えば、学校では文化祭やスポーツ大会が盛んに行われる季節です。学生にとって、その活動の中心となる場がサークル。共立の公認サークルには専任の教職員が顧問になっているのですが、じつは、文芸学部の教員が案外多いのです。今号の特集は、顧問のサークル紹介です。これをきっかけに、文芸学部生がもっとサークルに入ることを期待しつつ…。

特集

さあ来るなら、サークル。

添い、後ろからK3が様子を窺っていたのを今でも憶えている。要はミュージカル研究部を作りたいので顧問になってくれということ

のピークだった(右写真)。これから先の長い下り坂も、きつとこの楽しさと、OGの諸君との交流が、常に彩りとなり支えとなってくれるだろう。



私は今、演劇研究者としての資格を問われる覚悟でこの原稿を書いている。その理由は後に述べる。

私は今まで教員として研究者として、いや一人の人間として生きてこれたのも、宝塚歌劇団とこの二つのアマチュア劇団のおかげだと心から思う。昨年のミュージ研二十周年パーティーこそ我が人生

空間を共にして何かを創造する。まさに生きていることを最高に実感できる時だ。顧問は書類にハンコを捺すだけだから全部自分達でやる。苦労や失敗はあっても勝ち負けはない。思い出と経験が自分の中に結晶していく、これこそが真のアクティブ・ラーニングだ。

「社会福祉サークル」は、文字通りボランティア活動を行う。都内の特別養護老人ホームへの慰問、千代田区立の小学校における課外活動のお手伝い、そして、学び舎周辺地域の防災活動のお手伝いなど、その活動範囲は広いばかりか内容はかなりハードだ。聞けば何日も準備をして小学生向け自由研究ワークショップの企画コンペに臨むようなこともある。車椅子を押して潮干狩りをするのもある。「発案・企画・準備・実践・反省の流れを経験できるともいい機会です」という部員の感想は経験から積み出ている。「先輩後

輩関係なく仲良くなれる場」とも。さらに、明治大学のサークルと合同で活動を行うこともあり、インターカレッジ活動としての側面も垣間見せる。活動の目的が社会に向けられているだけでなく、活動

「社会福祉サークル」(部員84名)と「ダンスサークルFLAVIA」(部員37名)の顧問になって数年になる。いつも企画書にハンコを押すだけの関わりで申し訳ないと思っ

私は今まで教員として研究者として、いや一人の人間として生きてこれたのも、宝塚歌劇団とこの二つのアマチュア劇団のおかげだと心から思う。昨年のミュージ研二十周年パーティーこそ我が人生

社会を拓け、心を開け、身体を展げ。

北村 弥生



このたびは本欄執筆のご指名をいただき、本来なら謹んでお引き受けすべきところなのですが、まことに恐縮ながら今回は辞退させていただきます。ここに伏して

「ダンスサークルFLAVIA」は、別の意味でクールだ。吉祥寺で発表会があるというので覗きに行きたこと。究極の自己受容のシンボルと称されるRihannaを「超えている」とでも賞賛したくなるようなメンバーたちによるオリジナルの振り付けが、ヒップホップ音楽に合わせて誇らしげに披露される。この日の会場は「クラブハウス」ということだったの

「ダンスサークルFLAVIA」は、別の意味でクールだ。吉祥寺で発表会があるというので覗きに行きたこと。究極の自己受容のシンボルと称されるRihannaを「超えている」とでも賞賛したくなるようなメンバーたちによるオリジナルの振り付けが、ヒップホップ音楽に合わせて誇らしげに披露される。この日の会場は「クラブハウス」ということだったの

で、Rihannaのカレシ Hassan Jameel氏のような人がいっぱい来ていたらどうしようとかドキドキしながらかなり構えて赴いたところ、中はご父母の世代の観客と女子大生であふれかえり、さながら学園祭の発表会といった感じだった。一心不乱に踊るダンサー達に目が釘付けになって気がつけば、筆者の右足の踵は床にリズムを打っていた(上写真)。

肝心の卒論は、申し訳ない出来だったが、谷先生に出会えた事が、文芸での最高の学問ではなかったかと今でも思っている。

我が恩師

川瀬治子

富永惣一先生、谷信一先生、友部直先生。私が在学中に教えを受けた先生方だ。

富永先生のギリシア美術や、エーゲ海への思いの深さが伝わって来た講義。後年エーゲ海を目の当たりにした時の感激は今も忘れない。又、学習院初等科時代に院長だった乃木さんに頭を撫でてもらった逸話は、歴史上の人物が急に近くなった感覚を覚えたものだ。

ファンが多かった友部先生の講義は、いつも造形以外の受講生で盛況だった。そして谷信一先生。谷先生には卒論



谷 信一 先生

数々を見せて下さった。その中でも皇居新宮殿の「石橋の間」の絵画。今も陛下が会見なさる時、後方に見える絵だ。その制作過程のデッサンが描かれた何枚ものハガキを手にした時は、信じられない思いだった。

先生には社会人としての常識も学ばせて頂いた。たとえ選ぶ心で。芸大当時、先生の助手だった平山都夫さんが持参した土産に未熟さを感じた先生が注意した。その時の平山さんの爽やかな言動に、先生は「流石だ」と感心されたとのこと。私がお茶を始めた時には「何事も経験だから出てみなさい。先方には秘書が代理とっておくから」と、家元から届いた先生宛の初釜の招待状を下された。先生ご夫妻からは、人と対峙する時の思いやりも教えて頂いた。

で、Rihannaのカレシ Hassan Jameel氏のような人がいっぱい来ていたらどうしようとかドキドキしながらかなり構えて赴いたところ、中はご父母の世代の観客と女子大生であふれかえり、さながら学園祭の発表会といった感じだった。一心不乱に踊るダンサー達に目が釘付けになって気がつけば、筆者の右足の踵は床にリズムを打っていた(上写真)。

マジレス

國分 建志

このたびは本欄執筆のご指名をいただき、本来なら謹んでお引き受けすべきところなのですが、まことに恐縮ながら今回は辞退させていただきます。ここに伏して



お願い申し上げる次第です。と申しますのも、写真部の顧問は、前任者の先生が本学をお辞めになる際に、行きがかり上、同じコースの私が引き継いだまので、私自身、写真やカメラに関する知識は恥ずかしいほどにまったくありません。

実際、顧問になってからも、それらしいことは何一つしていません。部員たちは毎年、みずから手で撮影会や撮影合宿を行ったり、作品展を開いたりして、顧問などいなくても何の滞りもなく、自分たちだけで熱心に活動しています。私といえば、部長さんなどが時々持ってくる事務書類に目を通し、署名捺印するくらいです。その際には、野外の撮影では事故などにくれぐれも気をつけるよう、また周囲に迷惑となるような撮影行為は慎むよう一言申し添えますが、それも彼女たちにとっては言わずもがなのことばかりでしょう。

路上観察が趣味の私にもあのような腕前があれば、もっとインパクトのある写真が撮れるのにと、羨ましいばかりです。

ともあれ私は写真部の顧問にふさわしい人間とは到底申せませんので、先生にはご迷惑をおかけして心苦しいかぎりですが、今回執筆につきましてはご容赦くださいますよう、なにとぞお願い申し上げます。

追伸…なお写真部顧問にふさわしくないことをご理解いただけたいと思ひ、私のつたない自撮り写真を添えておきます(左写真)。(教授・文芸教養)



### サークル活動も いいかも

岡田ひろみ

中学高校とバドミントン部に所属していた。バドミントンは好きだったが、大学の体育会系部活動のハードルは高く、色々迷ってラグビーサークルのマネージャーをすることにした。その当時「大学」の代名詞は「サークル」と思っていたので、入らないという選択はなかった。

とはいえ、四年間続けたわけではなく、二年生になると、専門の授業も増え、何より「源氏物語」を「読む」ことの楽しさを知った私は、少しずつサークルから足が遠のき、二年目の夏を迎える前に退部してしまっただけで「途中でやめた」という後ろめたさはあるが、入部したことも、退部したことも後悔はしていない。退部したからこそ、現在の私があるともいえるし、入部したからこそ、いろんな学部の、いろんな個性のある人たちと出会えた。

大学教員になって、現在、バドミントン部と香道部の顧問をしている。バドミントン部も香道部も、一六二二年創部の歴史あるクラブである。バドミントン部の顧問になったのは、二〇一四年頃だが、その十年前くらいから、たまに部員にまじってシャトルを打たせてもらっていた。その頃は、四部リーグを目指していたようだが、現在は、公式戦云々でない所で、楽しく活動しているようだ。どちらのスタンスが良いかは、その時々本人たちが決めていけばよい。

香道部の顧問となったのは、二〇一六年である。近藤瑞男先生のご退職に伴う引き継ぎで背筋が伸びる思いがした。香道部は、師範の先生(文芸学部卒業生)の指導のもと、学生たちは京都での合宿や、卒業生や一般の方を招待しての香席など、縦・横の繋がりがあつた。途中でやめたという後ろめたさはあるが、入部したことも、退部したことも後悔はしていない。退部したからこそ、現在の私があるともいえるし、入部したからこそ、いろんな学部の、いろんな個性のある人たちと出会えた。

募集集中だそう。サークル活動は強制ではない。入るのも入らないのも、続けるのも辞めるのも自由である。迷うなら入る、入りたいものがなければ新たに作ることもお勧めしたい。(教授・日本語日本文学)

学生たちの自主的な集団活動は、人間形成にとって意義のある活動である。本学では、公認学生団体(サークル)活動は学生生活の向上に資するものと捉え、その活動を支援している。

本学では52の公認学生団体が活動している。文化系17団体、伝統文化系11団体、音楽系8団体、運動系14団体、公認団体昇格前の準備団体が2団体である。女子大では唯一艇庫を持つボート部や、他大学ではあまり見られない香道部も公認されており、精力的に活動している。

公認学生団体に加入している学生のうち、38%を占めているのが、一人がユダヤ人団体に立ち退きを迫られますが、誰もが自分の都合で行動した結果、登場人物の一人が死んでしまします。いかにもワルな悪役ではなく、「普通の人間」が引き起こす悲劇。そのサイクルが時にユーモアを交えて異化的に描かれています。

この作品を作ったのは、ユダヤ人の劇作家と演出家です。俳優は、ユダヤ人とアラブ人の混合チームで、彼らは九月間も共に暮らして問題を掘り起こしてきたと言います。演劇は、現実の鏡として、見る者の過ちや愚かしさを省みさせる機能を持っていますが、この作品はまさにそうしたものではない。七年、私が劇場に通っている間に、イスラエルの政治状況は非

## 研究ノート イスラエル演劇のこと

村井 華代

イスラエルに演劇を見に行くようになって七年になります。出会いは団体旅行。キリスト教と演劇思想の関係を扱っていたのでエルサレムに行きたいと思いましたが。観光バスに乗り、北はゴラン高原から南はアカバ湾に面するエイラトまで。エリコやベツレヘムといったヨルダン川西岸へも行きましたが、一〇日間の旅でエルサレムでは三日使うのにテルアビブは通過するだけ。今にして思えば、国境意識を強く反映した、

観光業とナシヨナリズムの密接さを示すサンプルのようなルートでした。

その時に見た現実によって、この国ではどういう演劇をやっているのか知りたくなりました。ここにはユダヤ系住民もアラブ系住民も共に住んでいるけれど、両者の間に流れた血の歴史、土地奪奪の歴史、憎悪の連鎖を越えて共存するなど可能なのか。そんな不可能とも言える日常の中で、どんな演劇を見たい、作りたいと思うのか。

それで二〇一二年、今度は一人で、北部アッコで毎年おこなわれている秋のフリンジ演劇祭を訪れました。一〇本ほどの作品でコンペが行われるのですが、どれも言葉がわからないことが気にならないほど刺激的でした。

その中の一本、『シルワンの孔雀』についてはクリエイターの協力を得て日本の学会で報告しました。二〇一四年のことです。

東エルサレムの町シルワンは、アラブ系住民が圧倒的多数ですが、ユダヤ人にとっては聖書時代の遺跡の宝庫であるため、保守系ユダヤ人団体がアラブ系住民を立ち退かせようとしているという現実があります。この劇でもアラブ

### 主体性・協調性を 育む正課外活動

櫻木 葉子

学生たちの自主的な集団活動は、人間形成にとって意義のある活動である。本学では、公認学生団体(サークル)活動は学生生活の向上に資するものと捉え、その活動を支援している。

本学では52の公認学生団体が活動している。文化系17団体、伝統文化系11団体、音楽系8団体、運動系14団体、公認団体昇格前の準備団体が2団体である。女子大では唯一艇庫を持つボート部や、他大学ではあまり見られない香道部も公認されており、精力的に活動している。

公認学生団体に加入している学生のうち、38%を占めているのが、一人がユダヤ人団体に立ち退きを迫られますが、誰もが自分の都合で行動した結果、登場人物の一人が死んでしまします。いかにもワルな悪役ではなく、「普通の人間」が引き起こす悲劇。そのサイクルが時にユーモアを交えて異化的に描かれています。

この作品を作ったのは、ユダヤ人の劇作家と演出家です。俳優は、ユダヤ人とアラブ人の混合チームで、彼らは九月間も共に暮らして問題を掘り起こしてきたと言います。演劇は、現実の鏡として、見る者の過ちや愚かしさを省みさせる機能を持っていますが、この作品はまさにそうしたものではない。七年、私が劇場に通っている間に、イスラエルの政治状況は非

が文芸学部の学生である。これは、全学部・学科のなかで最も多い。文芸学部の学生たちは文化系の団体の所属が目立つ。40名余りの部員数を誇る「放送研究部」も、所属部員の多くが文芸学部の学生だ。他大学の放送系団体の学生を招待して「番組発表会」を開催したり、部員が制作したDJ作品やラジオドラマ作品、映像作品を発表したりしている。また、例年4月に実施される「新入生歓迎会」や「共立音楽祭」など、大学イベントでの司会を依頼されるなど、

人前で話すことに特化した活動も請け負っている。「放送研究部の活動を通して、人前に立つことに慣れることができた」と文芸メディアコースに所属している現部長は言う。大人数の前で話すことは得意ではなかったが、何度も経験するうちに、緊張をコントロールできるようになったという。

苦手の克服以外にも、番組発表会を運営していくなかで予想外のトラブルに直面した際の対応力や、集団活動では不可欠な協調性、

(学生課職員・文芸学部卒業生)

心象点描

田口亜紀

四月に開かれた「文芸メディア集会」で下村陽子先生が「場所」という視点から特徴ある図書館を紹介されていた。お話を伺って、行ってみたい図書館がまた増えた。

「本を読む」「資料を探す」という本来の目的はさておき、建築や空間設計に一見の価値がある図書館、それ自体が旅の目的にもなる。

これまで訪れた中で、美しさに圧倒されたのが、スイスのザンクトガレン修道院図書館とポルトガルのコインブラ大学にあるジョアン五世図書館。スタイリッシュでエコなのは、台北市立図書館北投分館。温泉に隣接しているのもうれしい。企画展示の内容が素晴らしいのはラトビア国立図書館。きつと有能な司書と学芸員がそろっているのだろう。パリで最初の貸し出し図書館であり、マホで無制限に(！)撮った資料



が私の研究を支えてくれる。岩波ホールで見たドキュメントリー映画では、図書館の別々の顔を知った。「ニューヨークアンブロジーナ図書館・絵画館」は早い時期(十七世紀)に一般向が描き出すのは、読書会や講演に門戸を開いた。閲覧室の窓は採光のために計算され、貴重な写本は鉄製の鎖に繋がれて、錠前付の箱に収められている。訪れたとき、ヴィンチの「アトランティック手稿」が展示中だったので、現生生涯教育と生活の質向上のためのさまざまな取り組みだ。「知」へのアクセスと、そのためのサポートが、格差是正、社会問題の解決、「市民」の育成に至るという信念に貫かれている。民主主義の具体例である。

利用者は少ないが研究に必要な本を保存するのにも、ニーズの多いサービスを提供するのにも、図書館の役割。予算の限られる中で優先順位付けのジレンマはある。しかし、保管場所がないという理由で、資料を後の世代に残すという本来の使命を放棄する図書館は、もはや「図書館」を名乗れないことを、肝に銘じておかなければならぬ。(教授・フランス語フランス文学)

挿画・渡部 直(専任講師・造形芸術)



コースから

日本語日本文学

今年度もあつという間に前期が終わり、気がつけば気候もすっかり秋めいてきました。大学のロビーでは袴の展示や着付けの予約受付が始まっており、助手室を訪れる日文コース生からも、卒業式や衣装の話題をよく耳にするようになりました。

この記事が掲載される頃には、四年生の皆さんも袴の準備等をはじめられているでしょうか？ 卒論執筆でそれどころじゃない！ という方も勿論いるとは思いますが、日文の助手は、コース生全員の晴れ姿が見られるのを今から楽しみにしています。

しかし今回は取って、この期待とは反対の内容をもつような詩を贈りたいと思います。唐代の「金鏤衣」という漢詩ですが、ここでは佐藤春夫(「車塵集」)の訳を引用します。

綾にしき何をか惜しむ  
惜しめただ君若き日を  
いざや折れた花よりせせば

皆さんは、長編小説と短編小説では、どちらが好きだろうか。今の私は短編小説派で、これまで発表した研究論文も、短編を論じたものが圧倒的に多い。短編には、繰り返し精読して、作家が施した仕掛けを読み解いていく面白さがある。

学部長から

師をする主人公の見解  
「私が子供たちに教えているのは、実際の絵の描き方よりは、むしろものの見方なのだ」に、文芸学部の学びに通じる何かを見出し、とても共感した。

だが、こんなふうには、仕事にこじつけようとする邪心とまったく時間と体力が必要なの、あの頃のように長編に没入できなくなつた一因であることは言及して、学生時代の特権なかもしようまでもない。(教授・深津)

ためらば折りて花なし  
やもすれば、つい楽な方へ流れてしまつたり、授業や課題だけで手一杯になつたりしがちな大学生活ではありますが、年若い皆さんの興味を存分に追求できるような、充実した日々を送れることを祈っています。(助手・川崎)

英語英米文学

ご挨拶が遅れましたが、本年度より英語英米文学研究室の助手となりました。御子貝と申します。

私もこのコースの卒業生で、地元である栃木にUターンし社会人を二年経験したあと、縁あってこの共立で働かせていただくことになりました。

就任して約半年が経ちました。まだまだ未熟者です。みなさんの手を煩わせることも多いと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

七月に英文コースでは三年生を中心に「卒業生の話を聞く会」が開催されました。講演者には私と同年度に卒業した二名と、昨年度卒業したばかりの一名の計三名の方々にご登壇いただきました。お三方には、コースでの学び

が社会人生活にどのよう役立っているか、このコースで学ぶことでどんな将来設計が可能になるかなど、大変役立つお話をしていたいただきました。

今回はコース主催のイベントでしたが、3年生のみならずはこれを機会に、企業のインターンやOB訪問に自ら積極的に足を運んでみてはいかがでしょうか。(助手・御子貝)

フランス語フランス文学

うだるような暑さの二〇一九年八月上旬、長らく本館14階にて歴史を紡いできた仏文共同研究室が解体となった。今後は、それぞれの教員の個人研究室が新たな「仏文研究室」となる。

私が着任した当時は、武藤先生とマニユ先生が共同研究室の住人でいらして、温かな雰囲気がとても嬉しかったものだ。隣接する助手室とも内部でつながっていたから、助手たちが何をしていたか、どんな雰囲気なのか、すぐ感じられて、コミュニケーションとして一体感が強くあつたように思う。学生や卒業生たちがいつも訪れてきて、楽しく賑やかな空間

今年度より、卒論・卒制提出までの手続きが変わります。四年記のいずれに関しても、主査の教員としっかり話し合った上で臨んでください。三年生は、仮計画書提出の際に、従来の書類に加えて、KYONETのアンケート機能を使って自身で題目を入力することが必要になりますので、注意してください。

専門科目委員会から

また、三年生向けに昨年度の卒論・卒制の優秀卒論が配布されています。来年度の卒論・卒制について考えるための資料として、活用してください。(教授・原田)

提出は、受付期間最終日の前日までに行うよう、強く推奨されることになり、各研究室の対応も

だつた。マニユ先生が本学を去られ、程なくして助手室が移転、共同研究室はだいぶ味気なく寂しくなつた。武藤先生と二人だけで研究室にいたと、言葉は交わさなくなつてもさまざまな想いが伝わってきた。そんな武藤先生も今年の三月にご退職になり、はからずとも最後の一人となつた私は、段ボールの山に囲まれて、引越しの前がらんとした共同研究室の最後にこの原稿を書いている。

ルイ16世がヴェルサイユを去るときも、こんな気持ちだつたのだろうか。(准教授・滝沢)

劇芸術

この秋から劇芸術研究室が変わりました。先生方は個人研究室となり、助手は1421室で造形さんと同居となりました。

1405室の劇芸術研究室にはみなさん、それぞれたくさんの思い出があるのではないのでしょうか？ 少なくとも私が院生だった13年前と研究室は全く変わっていませんでした。研究室に行けば、先生方がいて、助手がいるスタイルも変わりません。変わったと言

大学院に入ることを「入院」として授業のバラエティを増やす予定です。もちろん、領域を超えた授業を履修することもできます。

大学院から

文芸学領域は、日本語学・英文学・演劇学・文芸学の四領域で構成されています。文芸学領域は、学部

大学院に入ることを「入院」として授業のバラエティを増やす予定です。もちろん、領域を超えた授業を履修することもできます。

え、私が学生でなく助手として研究室にいますでしょうか。劇芸術研究室には卒業生の方がよく見えます。私もそうでしたが、学生時代から変わらない研究室へ遊びに行く懐かしさと同時に安心を感じます。それは劇芸術研究室と先生方が迎えてくれるからにほかなりません。

先生方も、社会に出た自分の教え子の活躍を聞くのが楽しみの一つなのだと思います。

造形芸術

二〇一九年度入学生の卒業をもって造形コースの実技科目のすべてが廃止され、文芸学部から絵画・彫刻が姿を消す。

事の詳細には触れないが、簡単に言えば「大学経営の合理的判断に基づき実技を廃止する」とのことである。

「良い決断は数字ではなく、知識に基づく」とはプラトンの言である。大学院に入ることを「入院」として授業のバラエティを増やす予定です。もちろん、領域を超えた授業を履修することもできます。

ある。大学が好んでこの決断を下したとは思いたくないが、「数字が全て」という時代の悲しく貧しい現実であろうか。

実技廃止によって得られる数字は見えるだろうが、失う価値は見えない。見える数字なのか、見えない価値なのか、私たちがこのことから何を学ぶのかは難しい。いずれにしても、一つの時代が過ぎようとしている。残された時間は多くはないが、実技科目履修者、絵画・彫刻を志す学生はくじけることなく、少数派としての誇りを、そして今、文芸学部で実技を学べることに幸せを胸に、自らの志を遂げるべく励んで貰いたい。(教授・須田)

文芸教養

十一月になりました。「西向く侍」って聞いたことありますか？ 二月・四月・六月・九月・十一月は、三十一日まででない小の月ということですね。そうです、十一月はサムライ(士)なのです。

武士道精神とはいいたませんが、みなさんも刀を持ったつもりで文字通り「真剣」に学業に励みましょう。

十一月になりました。「西向く侍」って聞いたことありますか？ 二月・四月・六月・九月・十一月は、三十一日まででない小の月ということですね。そうです、十一月はサムライ(士)なのです。

特に四年生、卒論の下書きはもう終わりましたか？ ほんとどの四年生にとって、人生最初で最後の論文です。卒業式に卒業証書と一緒に返される卒論は一生(一笑?)の宝物です。達成感をもって卒論を提出しましょう。

「いま卒論の話は聞きたくない」という四年生は、黄信号が点滅する前に、ゼミの先生としっかり相談して最後の追い込みに入りましょう。

文芸メディア

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私は研究室工事のため、仮助手室でこの原稿を執筆しています。いつもと違う環境で、なん

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私は研究室工事のため、仮助手室でこの原稿を執筆しています。いつもと違う環境で、なん

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私は研究室工事のため、仮助手室でこの原稿を執筆しています。いつもと違う環境で、なん

だがそわそわしながら時を過ごしています。みなさんがこの文章をご覧になる頃には、この日差しが強さも和らぎ、新しい研究室にも慣れ、卒業期のみなさんは卒業論文執筆に力を注いでいる季節へと移り変わっていることでしょうか。

大学生活の折り返しを迎える三年生にもなると、卒業後の進路を考える季節に入りますね。そんな時、そわそわしたり、漠然と不安を感じたりすることは決して悪いことではないと思います。経験していない先のことなんて分かんなくて当たり前です。分かんなくて良いのです。やらなくて良いのです。

ただ、そんな自分を面白がってほしいと思います。笑って自分を認めて、時には誰かを頼り、次に活かされれば、それで良いのだと思います。

何か不安になつたら研究室に気軽に遊びにきてください。みなさんよりほんの少しだけ先にいる私たちは、聞くことしかできないかもしれないけれど、待っています。あたらしい文芸メディア研究室(1418A室)で。(助手・永嶋)

うが、ふと、その文芸学部らしさは、かつてのイメージによるものではないか、という気もする。現状はどうかと問われたら、ちよつと返事に窮する。▼

編集後記

▼学部長の第一面の題字の下で、毎号、意見・感想を求める呼び掛けをしているが、反応は見事なくらいに、無い。同僚や学生からも、ほぼ同様である。読まれてさえないのかもしれない。それでも、炎上しないだけマシと思うべきだろうか。▼

兼ね合いをどうするか、である。少なくとも、この学部報にはまだ、現物を希望する退職者や卒業生には送っている。そのうち何人かからは、いかにも文芸学部長らしい内容で、このような発行媒体は他には見られないという感想が届く。ありがたく思

「前号の訂正」  
第3面「研究ノート」末尾の肩書きを「准教授」から「専任講師」に訂正します。